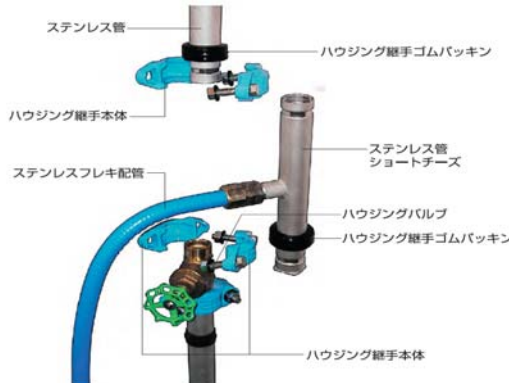
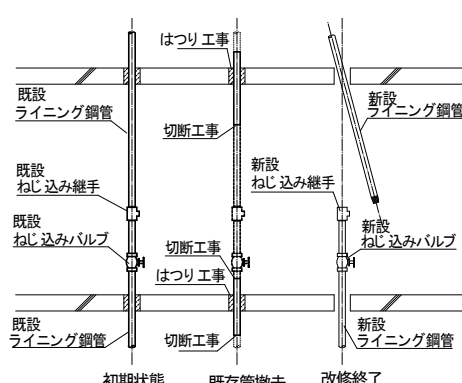
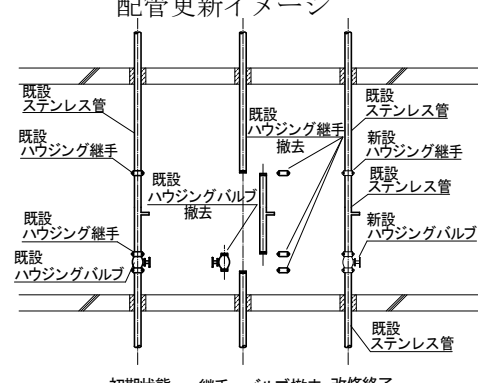


最終更新日 H25.3.1
改修技術 No. 11211101

性能分野	耐久性・耐用性
大分類	設備機器・配管の更新・点検の容易性確保
中分類	設備機器・配管の更新・点検の容易性確保
技術の名称	給水管更新工法
改修技術の概要	<p>・給水管更新工法は、耐久年数の異なる管と継手を各々更新しやすくした工法である。</p> <p>・共同住宅の給水配管システムは「管」と「管継手・バルブ」で構成されている。一般的に使用されている既存管の接続部は直管部・継手部共に腐食するため、更新する際、管・継手を同時に更新する必要がある。これに伴い、管の切断工事や躯体貫通部のはつり工事が発生する。</p> <p>・一方、高耐久ステンレス共用給水配管工法では1フロアにつき、分岐部を設けた短い給水立て管（ショートチーズ）とハウジング継手2個で構成することにより、ハウジング継手2個を同時に分解すれば、次回からの改修は耐用年数の短いハウジング継手のゴムやバルブを交換すれば容易に改修することができる。</p> <p>（「超高耐久オールステンレス共用部配管システムに関する技術開発」では、「ステンレス管」の期待耐用年数を200年、「管継手・バルブ」の期待耐用年数を30～40年としている）</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>ハウジング継手2個を同時に分解</p> <p>↓</p> <p>ハウジング継手のゴムを上下に移動</p> <p>↓</p> <p>ショートチーズを横に移動</p> <p>↓</p> <p>ハウジング継手のゴムを交換</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">初期状態    既存管撤去    改修終了</p> <p style="text-align: center;">既存管配管更新手順</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">初期状態    継手・バルブ撤去    改修終了</p> <p style="text-align: center;">高耐久ステンレス共用配管システム更新手順</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>既存管の接続部は直管部・継手部共に腐食する。更新する際、管・継手を同時に更新する必要がある。これに伴い、管の切断、躯体貫通部のはつり工事が発生する。</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高耐久ステンレス配管は、ハウジング継手を分解し、ゴムをずらせば、耐久性の高いステンレス管を継続使用し、耐用年数が短い継手のみを交換することができる。</p> </div> </div> <p>・ 工事期間（施工準備～施工～検査～施工完了）          従来配管から高耐久ステンレス共用給水配管工法への改修：40日          高耐久ステンレス共用給水配管工法から継手とバルブを交換する場合：1日</p> <p>・ 改修後の性能          耐久性向上</p>

共同住宅のタイプごとの技術の適用	技術の種類	<input type="checkbox"/> 調査・診断技術 <input checked="" type="checkbox"/> 改修技術（ <input type="checkbox"/> 劣化を補修する技術 <input checked="" type="checkbox"/> 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある
		S55年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある
		S56～H2年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある
		H3～12年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある
		H13年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある
(補足) —			
常にセットで利用される技術	<当技術を適用する前に実施する調査診断技術> 設備配管の腐食調査 (No.21114101)、設備配管のサンプリング調査 (No.21114102)		
技術が適用される建物の部位	<input checked="" type="checkbox"/> 共用部分 <input type="checkbox"/> 躯体・外壁 <input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/> 建具 <input checked="" type="checkbox"/> 設備・配管等 <input type="checkbox"/> その他共用部 <input type="checkbox"/> 専有部分 <input type="checkbox"/> 設備・配管 <input type="checkbox"/> その他専有部分 <input type="checkbox"/> 設置・運営等で建築基準法以外に注意すべき主な法令がある設備（給水管） <input checked="" type="checkbox"/> 注意すべき主な法令（水道法）		
団地で適用した場合のメリット	<input type="checkbox"/> 住棟まわりの土地が利用できること（仮設以外）（ ） <input type="checkbox"/> まとまった土地が利用できること（仮設以外）（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 住宅の数が多く密度が高い（管・継手・バルブ等を多数発注できること） <input type="checkbox"/> 特定の設備があること（ ）		
足場の設置が必要	<input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 （ ）		
工事による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 （ ）	
	一時的な影響が発生	<input checked="" type="checkbox"/> 断水などライフラインが一時的に利用不可 <input type="checkbox"/> 振動 <input type="checkbox"/> 騒音 <input type="checkbox"/> 粉塵 <input type="checkbox"/> 臭気 <input type="checkbox"/> その他専有部分又は専用使用部分に対する制限 （ ）	
	工事後に続く影響が発生	<input type="checkbox"/> 専有部分又は専用使用部分の使用に対する制限（ ） <input type="checkbox"/> 日照・採光等への影響（ ）	
当該技術が利用される工事	<input checked="" type="checkbox"/> 計画修繕工事（ <input type="checkbox"/> 劣化の補修 <input checked="" type="checkbox"/> 性能の向上） <input type="checkbox"/> 耐震改修工事（ <input type="checkbox"/> 耐震性の向上 <input type="checkbox"/> 他の性能の向上）		
技術的境界	—		
参考資料	技術情報	・ステンレス協会規格：SAS361-2006 ハウジング形管継手	
	価格情報	—	